



TITLE:

(随想)弘前大学に赴任して

AUTHOR(S):

舟生, 富寿

---

CITATION:

舟生, 富寿. (随想)弘前大学に赴任して. 泌尿器科紀要 1963, 9(1): 1-2

ISSUE DATE:

1963-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112403>

RIGHT:

# 泌 尿 器 科 紀 要

第 9 巻 第 1 号

昭和 38 年 1 月

## 随 想

### 弘前大学に赴任して

弘前大学教授 舟 生 富 寿

私は昨年7月末に新設された弘前大学泌尿器科学教室を担当することに決り、9月5日に仙台を離れ、同月7日、当地に赴任いたしました。来て見ますと、もと病室であつた木造3部屋が研究室用に空け準備してはありましたが、その他は何も無く、病院、大学の様子は皆目判らず、思わずひどい処に來たわいと呟いた次第でした。皮膚科惟子教授の至れり尽せりの御尽力、武藤外科時代の先輩に当る第2外科大内教授や東北大学時代の懐しい先輩の御助言、御助力を願い乍ら、机、椅子から整備し始め、10月1日より覚束ない乍らも診療開始。それから約2カ月で、医局総勢8名（検査員、秘書2名を含め）、どうやら教室らしい形になつてまいりました。

此の度稲田教授より泌尿器科紀要の巻頭文についての御依頼があり感激していますが、何分未熟教室にいる新米教授ですので、全く乏しい限りです。で此の度は弘前紹介といつた処で責を果させて戴き度いと存じます

当学は戦時中に出来た青森医専が戦災消失したため、弘前市に移転、弘前市立病院を附属病院として再建され、昭和24年、旧制弘前高等学校、青森師範学校を包括した新制大学設置に伴い弘前大学医学部に昇格しました。当初は130床程度の小病院でしたが、先輩諸先生の努力により年毎に内容は充実され、現在は病床600、外来患者1日約1,500人の規模に達しています。併し弘前市立病院時代の建物や終戦直後の間に合わせ建物が大部分を占め、狭隘、老朽甚だしく当地方に於ける大病院のうちでも最低ですが、やつと6階新病棟250床が完成し更に同規模の病棟が建築中であり、外来、手術棟など次々に建設される予定になつていいますから、5年後頃には面目は全く一新されるものと期待されます。

御承知の如く、当学泌尿器科は青森医専当時以来杉山万喜蔵教授が担当され、X線拡大撮影法、腎原体X線撮影法、その他数多くの業績を残して居られます。昭和32年先生の逝去後は惟子教授が引継がれ、夜尿症、泌尿器科領域の精神身体障害の研究など益々泌尿器科学発展のため努力されて今日に至りました。

私も両教授の築かれた伝統を継ぐことなきよう鈍才に鞭うつていきたいと念願いたして居ります

弘前市は秋田県境の山岳地帯に源をもち日本海に注ぐ岩木川の流域に拡がる津軽平野の中心であり、西方には津軽富士と称されている岩木山が豊かな裾野を駆け、東方には遠く八甲田連峯を望む風光明媚の地です。歴史的にも極めて古く、慶長6年に弘前城が築城されると同時に誕生したとされています。即ち昔時津軽地方は陸奥国司であつた北畠顯家の臣南部氏

に統治されていましたが、戦国時代になり津軽が信がその羈絆を脱して独立、津軽地方を統一して津軽氏を称したのに始まります。彼は要害にして風光明媚の地である鷹ヶ岡を撰んで築城に着手、二代目信政が完工と同時に家臣を率いて移り弘前の城下町が出来上つたのです。以来弘前市は明治4年の廃藩置県まで、260年間、12代の藩主の下で津軽藩城下町として、当地方の中心をなし繁栄して来ました。廃藩置県の際には弘前県庁所在地となりましたが間もなく地理的關係から、県庁は青森に移され、青森県に属するようになった由です。

戦前、弘前市には旧制高等学校、第8師団、師範学校などがあり、鬱蒼たる樹木に取囲まれた古い寺院や武家屋敷の多い学徒、軍人の町でした。豊富に産するリンゴ、米により比較的経済状態の恵まれていた当地方の人々は古い伝統と静かな環境の中で、長閑に、趣味豊かに生活していました。現在でも土蔵や連子窓、また黒門構えの武家屋敷が至る処にみられ、金看板を掲げた老舗、朱塗りの桶をかつぐ煮豆売りなど、全く江戸情緒を目の当りにする感もいたします。

何といても市の中心は「お城」です。現在は弘前公園として市民憩の地になっていますが、東西600メートル、南北960メートル、11万坪の平山城で、三重の水濠がとり巻き、本丸、二の丸、三の丸、北の郭、西の郭と同心円的に防備が施されています。これらの大部分、殊に5櫓門、3偶櫓、天守閣が老松と共に昔そのままの影を濠水面に映しており、三層の天守閣は石垣の上に高く聳え、市民の象徴となつています。また城内には千数百本の桜が植えられており、咲き乱れる4月下旬から5月上旬には、点綴する老松の緑、白亜の城壁とともに濠の水に見事に調和し、10日間の観桜会期中は毎年100万人を越す人出で賑うとの事です。

当地では秀麗な岩木山が霊山として信仰を集めています。裾野が広くなだらかな独立峯が青空にくつきり浮んで現われ嬋娟たる美女に擬えられており、市内の著明な庭園の多くは岩木山を背景とした古雅な風趣を持っています。またこの山は津軽平野を屏風の如くに北風から守り農作物を保護していますから、農民は毎年山麓の岩木神社に五穀豊穰を祈念します。

また弘前周辺は我国第1のリンゴ生産地で、国内生産高の約70%を占めるとの事です。8月から9月に「祝」、続いて「旭」、その後ゴールデンデリシャス、スターキング、印度、国光と出廻りますが、見渡す限り紅く映えているリンゴ園の光景は実に見事です。

弘前周辺の観光地では先づ黒石温泉郷經由十和田湖でしょう。十和田湖に源をもつ浅瀬石川に沿い延々20キロに及び点在する温泉や溪流の疊重奇岩は新緑、紅葉時共に旅人を完全に魅了してくれます。十和田湖は殊更に述べる必要のない程有名ですが、是非八甲田山を満喫して戴き度いと思います。八甲田連峰は奥羽山脈に連なる火山群ですが、諸々に原始林が密生し、峡谷、絶壁、高原、お花島など変化に富んでいます。主峯大岳に登れば東に田代岳、小川原湖を経て太平洋を、北に下北半島、津軽半島、陸奥湾、遙に北海道を、西に岩木山、津軽平野を一望の下に見渡すことができ、尚8月まで残雪が続いていますので夏スキーの醍醐味を味わうことが出来ます。

これらの他、当地方には大鱒碇ヶ関温泉郷、津軽半島小泊十三湖、夏泊浅虫温泉郷、恐山霊場など、数多くの奇勝、名勝地がありますので、私も寸暇を惜んでは大いに歩き廻らんと張切つています。

以上弘前周辺について御紹介申し上げましたが、私は此の土地にじつくり腰を下し、充分に馴染み、人々の中にとけ込み乍ら少しづつ仕事を進めていきたいと考えておりますので、皆様の御指導、御厚誼をお願いいたします。またお暇の節は御来弘下さるようお待ちしております。

最後に津軽美人。色白、目もと涼しい、大柄の美人です。健康そのもので、のびのびと働いています。勿論都会で磨けば素晴らしくなる素質は充分にみうけられます。但し情が深過ぎる由、